

京 都 府

# インバウンドと小さな拠点づくりによる地域振興

～「日本一の田舎づくり」を目指して、海外の人々も魅了する「日本の原風景」と官民一体となった拠点整備（京都府南丹市）～

【京都財務事務所】

## 1. 南丹市美山町「かやぶきの里」

夏は新緑に輝き、秋は真っ赤な紅葉に染まる木々のトンネルを抜ける周山街道（国道 162 号）を利用して、京都市内から車で約 1 時間あまり、市内から思いのほか近くに南丹市美山町がある。

美山町は約 800～900 メートル級の山々に囲まれた谷あいの山村で、山あいを縫うように由良川源流の美山川が流れ、豊かな自然と昔ながらの茅葺き民家が多く残っており大切に守られている。

特に、茅葺き民家が最も多く密集する「かやぶきの里」として知られる北集落は、「日本人の心のふるさと」ともいふべき、ノスタルジックな古き良き「日本の原風景」が一面に広がり、自然景観との見事な調和は自然の芸術そのものである。



## 2. 海外観光客の増加

近年、為替の影響による訪日旅行の割安感や LCC の増加に加え、ビザ発給要件の緩和などを要因に、「かやぶきの里」をはじめとした美山町の各観光地に海外観光客が増加している。海外観光客の中心は台湾で、ほかに香港や東南アジアの国々が多い。また、欧米からの観光客人気も高まっている。季節的にも、雪景色を楽しめる人気の冬だけでなく、桜や紅葉などの季節の訪問も増加している。



台湾人観光客は、「かやぶきの里雪灯廊イベントが良かった。本国では珍しい雪景色がとても幻想的で最高だった。」、オランダ人観光客からは、「日本の観光地を多く回り、どの観光地も魅力的であったが、なかでも美山町の自然が最も良かった。また是非とも訪れたい。」、との感想が聞

「かやぶきの里」北集落は、伝統的なかやぶきの技法とともに継承された歴史的景観が評価され、平成 5 年 12 月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

かれるなど、日本人観光客のみならず、海外観光客は総じて美山町の観光を思い出に残るものとして楽しんでいる。「派手さはないが、心が和む」。理屈ではなく、そんな魅力は万国共通のものとして、あらゆる国の人々の心を打つようだ。

当市では、こうした状況を更なるチャンスととらえ、「日本一の田舎づくり」をキャッチフレーズに、地元観光バス会社や私鉄系バス会社と協力し、京都駅や園部駅から観光客向けツアー等の直行便バスを増便したほか、美山町の宿泊施設を海外各国の宿泊サイトに登録するなど、海外観光客を増やす各種取組を実施してきた。こうした取組の結果、アメリカ人観光客から「京都市内のホテルが満室だったため、宿泊サイト予約で美山町に連泊した。当初の計画になかった、かやぶきの里や大野ダムを観光したが、桜がとても美しく大満足。」との声が聞かれるなど、美山町の入込観光客数は、平成 24 年を底に回復しており、今後も国内外の観光客数の増加が期待される。

### 3. 閉鎖した J A 店舗を道の駅として再生

「かやぶきの里」より車で約 8 分（約 6 km）と、近隣の平屋地区に道の駅「美山ふれあい広場」がある。

もともと同広場には、J A の店舗が存在していたが、J A の広域合併が進められるなか、店舗の閉鎖が決定したことから、美山町では、行政窓口機能を持つ住民自治組織「平屋振興会」が中心になり、地区住民と話し合いを重ねた結果、地区住民が地域活性化のために活用することを条件に、同町が J A より店舗跡地を取得した。

これを受け、地区住民の共同出資により設立された「(有) ネットワーク平屋」が、J A 店舗を引き継ぎ、店舗建物をリフォームしたうえで、平成 14 年に地元野菜や日用品・特産品等を直売する「ふらっと美山」を開設した。これより官・民一体となった、当時全国では珍しかった既存施設を活用した「道の駅」づくりが始められ、平成 17 年には広場や駐車場を含めた一帯が道の駅として登録された。

「ふらっと美山」は、地区住民の共同出資という限られた予算のなかで、地元産を意識した品揃え（美山ブランドの確立）や在庫リスクのない委託販売方式の採用、地元商店や飲食店との競合を避けた店舗構成、インターネット上での情報発信など、様々な創意・工夫を凝らし、行政の補助や助成に頼らない経営を続けている。

また、「道の駅」では、春・夏・秋の各季節に「ふれあい祭り」を開催し、露店、アトラクション、イベント、福引など、積極的な交流行事を実施している。



#### 4. 道の駅「美山ふれあい広場」を中心に「小さな拠点」を整備

道の駅区域内には、「ふらっと美山」のほか、乳製品加工・直売所、行政窓口（平屋振興会）、観光協会、農業振興総合センター、高齢者コミュニティセンター、第三セクター社屋、ATM（JA）などがある。

さらには、診療所、保健福祉センター、郵便局、レストラン、喫茶店、漁業協同組合、市営バス停などの施設が隣接しており、道の駅を中心に、日常的な行政窓口から買い物、食事、医療・福祉、観光交流等の生活サービス機能を基幹集落に集約した、地元住民のみならず観光客にとっても利便性が高い「小さな拠点」づくりがなされている。



道の駅内の店舗「美山のめぐみ牛乳工房」で販売している美山牛乳を使用した「ジェラート」

また、「かやぶきの里」をはじめとした美山町の海外観光客向けバスツアーに、道の駅「美山ふれあい広場」も含まれており、道の駅直売所の乳製品や地元特産品等が海外観光客にも人気を博すなど、近年は、海外観光客も取り込んだ拠点として、更にその存在感を高めている。

#### 5. 今後の展望

東京－京都－大阪を巡るツアー以外でも、日本の農山村の風景や暮らしぶり、四季の自然やおもてなし、和食など、海外の人々の日本に対する興味は増すばかりである。

こうした状況下、当市を取り巻く社会的環境も大きく変化しつつある。その代表的な事象が、平成 27 年度に予定されている美山町全域を含む由良川・桂川上中流域の国定公園化である。加えて、27 年 7 月予定の京都縦貫自動車道の全線開通、海外観光客の増加、京都府が掲げる「森の京都構想」、26 年 11 月 21 日に日本で 6 番目に認定された「南丹市美山エコツーリズム推進全体構想」、東京オリンピック開催など、観光事業を推進するための強力な追い風が吹くなか、地域の文化や自然を守り、生かし、「かやぶきの里」などの観光資源や地元特産品・農産物等地域資源を活用したエコツーリズムの推進が、交流人口を増加させ、雇用創出、定住促進へと繋がる切り札となることが期待される。

(南丹市 ホームページアドレス <http://www.city.nantan.kyoto.jp/>)

(美山ふるさと株式会社 ホームページアドレス <http://www.miyamafurusato.com/#/>)